

新興国為替ファンド インドルピー買い

運用報告書（全体版）（満期償還）
（償還日 2017年9月11日）

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／その他資産（通貨）／特殊型（ブル・ベア型）	
信託期間	2012年9月5日から2017年9月11日まで	
運用方針	日々の基準価額の値動きが、インドルピーの円からみた日々の騰落率と「概ね同程度」となる投資成果を目指して運用を行います。	
主要運用対象	円建の外国投資信託であるエマージング・カレンシー・ファンド クラスC-インドルピーロングおよび国内投資信託であるT&Dマネーアカウントマザーファンドを主要投資対象とします。	
	エマージング・カレンシー・ファンド クラスC-インドルピーロング	主として円建の短期の日本国債を投資対象とします。原則として純資産相当額のインドルピー買い／円売りの為替取引（NDF取引を含みませぬ）を行います。
	T&Dマネーアカウントマザーファンド	わが国の国債、公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
組入制限	投資信託証券への投資割合には制限を設けません。外貨建資産への直接投資は行いません。株式への直接投資は行いません。	
分配方針	毎決算時（9月10日、休業日の場合は翌営業日）に分配を行います。分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。	

お客様へ

毎々格別のお引立てにあずかり厚く御礼申し上げます。
さて、「新興国為替ファンド インドルピー買い」は、信託約款の規定に基づき、2017年9月11日に信託期間を満了し償還となりましたので、運用経過と償還内容をご報告申し上げます。
これまでのご愛顧に対しまして、厚く御礼申し上げます。

T&Dアセットマネジメント株式会社
〒108-0014 東京都港区芝 5-36-7

お問い合わせ先
投信営業部 03-6722-4810
(受付時間：営業日の午前9時～午後5時)
<http://www.tdasset.co.jp/>

設定以来の運用実績、基準価額の推移等

設定以来の運用実績

決算期	基準価額			債券組入比率	債券先物比率	エマーゼン・カレンシー・ファンドクラスC-インドルピーロン組入比率	純資産総額
	(分配落)	税込み分配金	期中騰落率				
設定日 2012年9月5日	円 10,000	円 -	% -	% -	% -	% -	百万円 10
1期 (2013年9月10日)	11,351	0	13.5	0.0	-	97.9	14
2期 (2014年9月10日)	13,247	0	16.7	0.0	-	98.8	181
3期 (2015年9月10日)	13,948	0	5.3	-	-	98.5	82
4期 (2016年9月12日)	12,167	0	△12.8	-	-	98.3	91
償還日 5期 (2017年9月11日)	(償還価額) 13,974.78		14.9	-	-	-	45

(注) 基準価額および分配金は1口当たり。基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 設定日の基準価額および純資産総額には、当初元本を用いております。

(注) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、債券組入比率は実質比率を記載しております。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは、比較対象として適切なものがないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

当期中の基準価額等の推移

年月日	基準価額		債券組入比率	債券先物比率	エマーゼン・カレンシー・ファンドクラスC-インドルピーロン組入比率
	騰落率				
期首 (前期末) 2016年9月12日	円 12,167	% -	% -	% -	% 98.3
9月末	12,068	△ 0.8	-	-	98.3
10月末	12,546	3.1	-	-	98.5
11月末	13,091	7.6	-	-	98.5
12月末	13,682	12.5	-	-	98.5
2017年1月末	13,532	11.2	-	-	98.6
2月末	13,492	10.9	-	-	98.6
3月末	13,735	12.9	-	-	98.7
4月末	13,958	14.7	-	-	98.5
5月末	13,843	13.8	-	-	98.4
6月末	14,060	15.6	-	-	98.6
7月末	13,978	14.9	-	-	98.5
8月末	13,914	14.4	-	-	98.5
償還日 2017年9月11日	(償還価額) 13,974.78	14.9	-	-	-

(注) 基準価額は1口当たり。騰落率は期首比。

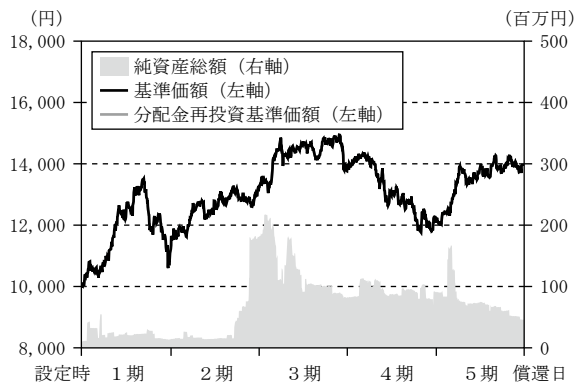
(注) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、債券組入比率は実質比率を記載しております。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは、比較対象として適切なものがないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

設定以来の運用経過

■ 基準価額等の推移



(注) 分配金再投資基準価額は、設定日(2012年9月5日)の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

(注) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 設定日の基準価額および純資産総額には、当初元本を用いております。

■ 基準価額の変動要因

主に外国投資信託「エマージング・カレンシー・ファンド クラスC-インドルピーロング」に投資した結果、インドルピーが対円で上昇したことがプラス寄与し、基準価額(分配金再投資ベース)は上昇しました。

■ 投資環境

【為替市場】

第1期（設定日～2013年9月10日）

インドルピーは対円で上昇しました。期初は、2012年9月、10月と日銀が2ヵ月連続で追加金融緩和を実施したことに加えて、9月に米国ではFRB（米連邦準備制度理事会）がQE3（量的金融緩和第3弾）を決定したこと等を受けて投資家のリスク許容度が改善し、インドルピーは円に対して上昇しました。12月には、日本の衆議院総選挙の実施が決定され、政権交代への期待感が高まる中、自民党安倍総裁が無制限金融緩和等の大胆なリフレ政策を打ち出したことで、円はインドルピーに対して下落しました。2013年1月に日銀が「物価安定の目標」を消費者物価の前年比上昇率で2%と決定したことや、4月に黒田日銀新体制の下で新たな金融緩和策「量的・質的金融緩和」の導入が決定されたこと等から、円はインドルピーに対して一段と下落しました。5月以降、米国でバーナンキFRB議長が年内のQE3縮小の可能性に言及したこと等から、市場でも将来の金融政策の引締めが意識され、投資資金が新興国市場から流出しました。インドでは金融引締め等の種々の通貨防衛策が打ち出されましたが、経常収支が大幅な赤字であることや、景気の弱含みが続く中での金融引締めにより一層の景気減速が懸念されたこと等から、インドルピーは新興国通貨の中でも相対的に大きな下落幅となりました。

第2期（2013年9月11日～2014年9月10日）

インドルピーは対円で上昇しました。期初から2013年12月にかけては、日本における大規模な金融緩和や貿易赤字が円安要因となったことに加え、インドのファンダメンタルズの改善や利上げによるインフレ抑制姿勢が好感され、インドルピーは円に対して上昇しました。2014年1月には、以前から燻っていた中国のシャドーバンキング問題への懸念が高まったことに加え、中国の製造業PMI（購買担当者景気指数）の悪化、アルゼンチンペソの急落等から新興国通貨が軒並み下落したことを受け、インドルピーも円に対して下落しました。2月から期末にかけては、新興国通貨に対する過度なリスク回避姿勢が後退したことや、イエレンFRB議長のハト派的な姿勢により米国の利上げ期待が高まらなかったこと等が新興国通貨にプラスに働いたほか、日本においても追加金融緩和期待が燻り続けたことから、インドルピーは対円で上昇しました。

第3期（2014年9月11日～2015年9月10日）

インドルピーは対円で上昇しました。期初は他の新興国通貨と同様に下落方向で推移したものの、モディ政権下における経済ファンダメンタルズの改善と構造改革への期待は根強く、下値は限定的でした。2014年10月下旬に入ると、日銀による量的金融緩和拡大の発表等を受けた円安米ドル高の



(注) 為替レートは、ノムラ・バンク（ルクセンブルグ）エス・エーより入手した対ユーロ為替を当社が円換算したものです。

（2014年12月29日までは、ロンドンの18:00の対米ドルNDF為替（出所：Bloomberg）を当社が円換算したものです。）

(注) 当ファンド基準価額への組入投資信託基準価額の反映を考慮して、作成期間を1営業日前にずらして作成しております。

流れを受けて大きく上昇しました。12月に入るとロシアルーブルの急落から新興国通貨に対する売り圧力が強まったことで一時急速に下落したものの、政治に対する改革期待の根強さや原油安が材料となり、2015年3月末にかけて上昇基調で推移しました。この間インド準備銀行は政策金利を2度引下げましたが、景気支援効果が意識され上昇要因となりました。4月以降も、インド準備銀行が6月に追加利下げを行ったこともあり、堅調に推移しましたが、8月下旬の世界的な株価急落を受けて、インドルピーも期末にかけて下落しました。

第4期（2015年9月11日～2016年9月12日）

インドルピーは対円で下落しました。期初はインド準備銀行が実施した追加利下げを背景にしたインド株高や、貿易赤字縮小等インドのファンダメンタルズ改善が好感され、堅調に推移しました。2015年11月に入ると、地方選挙でのモディ首相率いる与党の惨敗で経済改革停滞が懸念されたことから上値の重い展開となりました。2016年1月から2月にかけては、中国の株価急落や資源価格下落に伴い新興国の経済全般に懸念が高まったこと等を受け、下落しました。3月以降は、財政健全化の方針を維持する予算案が好感され持ち直す場面もありましたが、インド準備銀行のラジャン総裁が退任するとの報道や、6月の英国のEU（欧州連合）離脱決定に伴う懸念等から、インドルピー安が進行しました。その後は、米国の早期利上げ観測を受けた円安米ドル高の流れやインド議会で物品サービス税法案が可決されたことを受け、持ち直しの動きとなりました。

第5期（2016年9月13日～償還日）

インドルピーは対円で上昇しました。期初は横ばい圏で推移しましたが、2016年11月の米国大統領選挙の結果、米国新政権が掲げる財政刺激策への期待等を受けて日米の金利差が拡大する中、急速に円安米ドル高が進んだことから、インドルピーも対円で上昇しました。2017年に入ると、高額紙幣の廃止をめぐる懸念がインドルピーの圧迫要因となったものの、1月末に発表されたインド政府の予算案が好感されたほか、2月から3月にかけてインドの主要州議会選挙における与党の勝利を受けて、インドルピーは堅調に推移しました。その後は、インド準備銀行の利下げによる景気刺激の期待がインドルピー高要因となった一方、米政権の政策運営に対する懸念や北朝鮮を巡る地政学リスク等が円高要因となり、期末にかけてインドルピーは対円でやや弱含んで推移しました。

【国内短期金融市場】

第1期（設定日～2013年9月10日）

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、期首の0.100%から期末は0.090%となりました。日銀の黒田新体制の下で大胆な金融緩和が実施されるとの期待感が高まったことから、利回りは一時0.04%程度まで低下しましたが、その後、日銀の国庫短期証券買入オペの減額等により再度上昇しました。

第2期（2013年9月11日～2014年9月10日）

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、期首の0.090%から期末は△0.001%となりました。2013年4月より導入された「量的・質的金融緩和」のもと、日銀の国庫短期証券買入オペによって需給がひっ迫し、利回りは低下しました。

第3期（2014年9月11日～2015年9月10日）

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、期首の△0.001%に対して、期末も同水準の△0.001%となりました。期中においては日銀による国庫短期証券買入オペ金額の増減によって、若干の利回りの変動はあったものの、需給がひっ迫した状況が続きました。

第4期（2015年9月11日～2016年9月12日）

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、期首の $\Delta 0.001\%$ から期末は $\Delta 0.315\%$ となりました。日銀による大規模な国庫短期証券の買入オペが継続したことや2016年1月末にマイナス金利政策の導入が決定されたこと等から利回りは低下しました。

第5期（2016年9月13日～償還日）

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、期首の $\Delta 0.315\%$ から償還時は $\Delta 0.183\%$ となりました。日銀による「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」等の短期金利を低位に抑える金融政策が継続しましたが、日銀の国庫短期証券買入オペ動向に対する不透明感の高まり等から利回りは上昇しました。

■ 当該投資信託のポートフォリオ

【当ファンド】

信託期間を通じて、「エマージング・カレンシー・ファンド クラスC-インドルピーロング」を高位に組入れ、残りの資産につきましては「T&Dマネーアカウントマザーファンド」およびコールローン等で運用を行いました。満期償還に伴い、2017年9月上旬から償還日までコールローン等による安定運用を行いました。

【エマージング・カレンシー・ファンド クラスC-インドルピーロング】

為替取引（NDF取引を含みます）を通じて、インドルピーの円からみた日々の騰落率と概ね同程度となる投資成果を目指して運用を行いました。

【T&Dマネーアカウントマザーファンド】

国債の組入比率は、純資産総額の増減が激しいこともあり低位に抑え、国債の利回りがマイナスとなった局面では組入れを見送り、2016年3月より0%といたしました。残りの資産については、全額コールローン等で運用を行いました。

■ 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載しておりません。

1口当たりの費用明細 (2016年9月13日から2017年9月11日まで)

費用の明細

項目	当期		項目の概要
	2016/9/13~2017/9/11		
	金額	比率	
平均基準価額	13,491円		期中の平均基準価額です。
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	92円 (44) (44) (4)	0.679% (0.323) (0.323) (0.032)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 運用財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) その他費用 (監査費用)	2 (2)	0.014 (0.014)	(b) その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合計	94	0.693	

(注) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 平均基準価額の円未満は切捨て、それ以外の各金額は項目ごとに四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、当ファンドが組入れている投資信託証券(親投資信託を除く。)が支払った費用を含みません。

(注) 「比率」欄は1口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

売買および取引の状況 (2016年9月13日から2017年9月11日まで)

(1) 投資信託証券

		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
外 国 (邦貨建)	エマージング・カレンシー・ファンド クラスCーインドルピーロンク	6,915	千円 88,521	10,998 (3,167)	千円 148,045 (45,275)

(注) 金額は受渡代金。単位未満は切捨て。

(注) () 内は分割、償還等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

(2) 親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
T&Dマネーアカウントマザーファンド	千口 —	千円 —	千口 69	千円 70

(注) 単位未満は切捨て。

利害関係人との取引状況等 (2016年9月13日から2017年9月11日まで)

当期における利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

組入資産の明細 (2017年9月11日現在)

償還時における組入れはありません。

投資信託財産の構成 (2017年9月11日現在)

項 目	償 還 時	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コール・ローン等、その他	46,164	100.0
投資信託財産総額	46,164	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

資産、負債、元本および償還価額ならびに損益の状況

資産、負債、元本および償還価額の状況

2017年9月11日現在

項 目	償 還 時
(A) 資産	46,164,206円
コール・ローン等	46,164,206
(B) 負債	215,142
未払信託報酬	209,795
未払利息	82
その他未払費用	5,265
(C) 純資産総額(A-B)	45,949,064
元本	32,880,000
償還差損益金	13,069,064
(D) 受益権総口数	3,288口
1口当たり償還価額(C/D)	13,974円78銭

(注) 期首元本額 74,940,000円

期中追加設定元本額 72,480,000円

期中一部解約元本額 114,540,000円

(注) 1口当たり純資産額は13,974.78円です。

損益の状況

当期 自2016年9月13日 至2017年9月11日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 1,440円
支払利息	△ 1,440
(B) 有価証券売買損益	5,356,609
売益	10,639,980
買損	△ 5,283,371
(C) 信託報酬等	△ 529,609
(D) 当期損益金(A+B+C)	4,825,560
(E) 前期繰越損益金	△ 1,429,384
(F) 追加信託差損益金	9,672,888
(配当等相当額)	(1,256,216)
(売買損益相当額)	(8,416,672)
償還差損益金(D+E+F)	13,069,064

(注) 損益の状況の中で

(B) 有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。

(C) 信託報酬等には、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(F) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日	2012年9月5日		投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2017年9月11日		資産総額	46,164,206円
区分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減又は追加信託	負債総額	215,142円
				純資産総額	45,949,064円
受益権口数	1,010口	3,288口	2,278口	受益権口数	3,288口
元本額	10,100,000円	32,880,000円	22,780,000円	1口当たり償還金	13,974.78円
毎計算期末の状況					
計算期	元本額	純資産総額	基準価額	1口当たり分配金	
				金額	分配率
第1期	12,610,000円	14,313,516円	11,351円	0円	0.0000%
第2期	137,050,000円	181,547,523円	13,247円	0円	0.0000%
第3期	59,260,000円	82,654,841円	13,948円	0円	0.0000%
第4期	74,940,000円	91,181,772円	12,167円	0円	0.0000%

償還金のご案内

1口（元本10,000円）当たり償還金（税込み）	13,974円78銭
--------------------------	------------

お支払場所 取扱販売会社 本・支店

組入投資信託証券の内容

エマージング・カレンシー・ファンド

クラスA－韓国ウォンロング／クラスB－韓国ウォンショート
 クラスC－インドルピーロング／クラスD－インドルピーショート
 クラスE－トルコリラロング／クラスF－トルコリラショート
 クラスG－ブラジルリアルロング／クラスH－ブラジルリアルショート

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

分 類	ケイマン籍／外国投資信託／円建			
運用の基本方針 主な投資対象	主として円建の短期の日本国債に投資を行い、安定的なインカム収益の獲得と信託財産の成長を目指して運用を行います。また、為替取引（NDF取引を含みます。）を積極的に活用します。			
投資態度	①主として円建の短期の日本国債を投資対象とします。 ②各クラスにおいて、為替取引（NDF取引を含みます。）を積極的に活用します。 【各クラスの為替取引】 各クラス毎に、原則として純資産相当額の以下の為替取引を行います。			
	クラスA－ 韓国ウォンロング	韓国ウォン買い／ 円売り	クラスB－ 韓国ウォンショート	円買い／ 韓国ウォン売り
	クラスC－ インドルピーロング	インドルピー買い／ 円売り	クラスD－ インドルピーショート	円買い／ インドルピー売り
	クラスE－ トルコリラロング	トルコリラ買い／ 円売り	クラスF－ トルコリラショート	円買い／ トルコリラ売り
	クラスG－ ブラジルリアルロング	ブラジルリアル買い／ 円売り	クラスH－ ブラジルリアルショート	円買い／ ブラジルリアル売り
	資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。			
主な投資制限	①株式への直接投資は行いません。 ②公社債については、原則として、円建の短期の日本国債以外への投資は行いません。			
投資顧問会社	T&Dアセットマネジメント株式会社			

※ 次ページ以降の記載は、ノムラ・バンク（ルクセンブルグ）エス・エーより入手した監査済報告書を、当社が一部和訳したものです。当社は、その内容の正確性・完全性を保証するものではありません。

(1) 各クラスの状況

作成基準日：2017年4月28日

	受益権総口数	純資産総額	1単位当たり基準価額
クラスA－韓国ウォンロング	1,096口	14,643,886円	13,361円
クラスB－韓国ウォンショート	34,879	176,734,316	5,067
クラスC－インドルピーロング	4,620	65,753,343	14,231
クラスD－インドルピーショート	1,952	9,162,353	4,695
クラスE－トルコリラロング	15,284	139,978,196	9,159
クラスF－トルコリラショート	11,007	79,130,695	7,189
クラスG－ブラジルリアルロング	8,562	103,574,586	12,097
クラスH－ブラジルリアルショート	4,422	23,177,351	5,241

エマージング・カレンシー・ファンドの純資産総額	612,154,726円
-------------------------	--------------

(2) 損益計算書

計算期間：2016年4月29日～2017年4月28日

	単位：円
費用	
運用報酬	94,659
管理費用	4,926,500
保管費用	598,379
銀行当座貸越に伴う支払利息	715,786
受託費用	1,081,750
弁護士費用	837,075
雑費用	47,235
監査費用	1,507,365
その他費用	2,268,233
費用合計	12,076,982
投資損益	(12,076,982)
外国為替取引に係る当期実現損益	40,455,874
外国為替取引に係る当期未実現損益	10,716,532
運用による純資産増減	39,095,424

(注) 日付は現地基準です。

(注) () 書きは負数です。

(3) 組入資産の明細

作成基準日：2017年4月28日

外国為替取引

買い	数量	売り	数量	決済日	未実現損益
JPY	63,084,509	KRW	638,233,043	2017/5/8	604,763 円
TRY	273,904	JPY	8,169,113	2017/5/8	355,740
TRY	206,425	JPY	6,116,755	2017/5/8	307,894
TRY	234,069	JPY	6,921,606	2017/6/2	302,826
INR	4,587,321	JPY	7,704,040	2017/6/2	196,469
JPY	22,404,008	BRL	638,422	2017/5/8	152,013
TRY	308,566	JPY	9,401,774	2017/6/2	121,980
TRY	457,449	JPY	14,000,064	2017/6/2	118,887
TRY	48,124	JPY	1,423,079	2017/6/2	62,261
TRY	85,106	JPY	2,587,285	2017/6/2	39,485
TRY	20,620	JPY	607,865	2017/5/8	33,917
TRY	32,031	JPY	969,200	2017/5/8	27,720
TRY	21,913	JPY	662,326	2017/6/2	14,013
KRW	31,730,253	JPY	3,095,193	2017/6/2	8,813
TRY	27,135	JPY	830,476	2017/6/2	7,052
TRY	2,705	JPY	79,390	2017/5/8	4,814
TRY	1,677	JPY	49,335	2017/5/8	2,889
INR	48,838	JPY	82,036	2017/5/8	2,477
INR	92,859	JPY	158,567	2017/5/8	2,123
INR	76,667	JPY	130,698	2017/5/8	1,971
INR	141,470	JPY	241,890	2017/6/2	1,757
INR	54,795	JPY	93,743	2017/5/8	1,078
INR	118,843	JPY	204,591	2017/5/8	1,062
INR	13,296	JPY	22,331	2017/5/8	678
KRW	1,136,160	JPY	110,559	2017/6/2	586
TRY	2,279	JPY	69,920	2017/6/2	423
TRY	450	JPY	13,597	2017/6/2	316
INR	9,855	JPY	16,738	2017/6/2	236
INR	83	JPY	141	2017/5/8	4
TRY	3,717	JPY	114,761	2017/6/2	(32)
KRW	40,423	JPY	4,000	2017/5/8	(43)
TRY	6,677	JPY	206,163	2017/6/2	(57)
INR	59,770	JPY	103,235	2017/6/2	(296)
TRY	3,391	JPY	104,993	2017/6/2	(302)
BRL	9,544	JPY	333,254	2017/5/8	(580)

買い	数量	売り	数量	決済日	未実現損益
INR	124,921	JPY	215,777	2017/6/2	(631)円
TRY	26,749	JPY	826,407	2017/6/2	(793)
BRL	2,362	JPY	82,544	2017/6/2	(830)
BRL	11,678	JPY	405,465	2017/6/2	(1,599)
BRL	8,027	JPY	281,644	2017/5/8	(1,844)
BRL	7,532	JPY	265,446	2017/5/8	(2,906)
BRL	11,372	JPY	396,594	2017/6/2	(3,334)
BRL	10,133	JPY	356,583	2017/5/8	(3,375)
TRY	23,988	JPY	744,571	2017/6/2	(4,184)
KRW	23,590,936	JPY	2,313,415	2017/6/2	(5,636)
KRW	46,252,999	JPY	4,535,506	2017/6/2	(10,816)
KRW	7,099,550	JPY	707,641	2017/5/8	(12,631)
KRW	21,180,015	JPY	2,086,293	2017/6/2	(14,362)
TRY	525,692	JPY	16,240,810	2017/6/2	(15,576)
KRW	11,559,289	JPY	1,150,522	2017/5/8	(18,927)
BRL	269,124	JPY	9,402,507	2017/6/2	(95,936)
JPY	22,995,821	BRL	668,294	2017/6/2	(114,446)
JPY	9,505,992	INR	5,632,616	2017/5/8	(241,012)
JPY	9,352,741	INR	5,580,094	2017/6/2	(257,570)
JPY	14,316,699	KRW	149,752,670	2017/5/8	(343,320)
JPY	94,235,065	BRL	2,715,512	2017/5/8	(413,160)
JPY	38,627,128	TRY	1,274,926	2017/5/8	(1,052,903)
JPY	60,191,539	INR	35,785,694	2017/5/8	(1,734,092)
JPY	55,513,651	TRY	1,887,486	2017/6/2	(2,742,652)
JPY	161,368,859	KRW	1,689,306,037	2017/6/2	(3,887,159)
JPY	88,456,180	TRY	2,984,351	2017/5/8	(4,426,981)
TRY	3,007,546	JPY	88,456,180	2017/6/2	4,370,178
KRW	1,687,918,262	JPY	161,368,859	2017/5/8	3,869,694
TRY	1,872,930	JPY	55,513,651	2017/5/8	2,778,301
TRY	2,984,351	JPY	90,418,522	2017/5/8	2,464,639
INR	43,167,609	JPY	72,852,636	2017/5/8	1,847,085
INR	35,911,877	JPY	60,191,539	2017/6/2	1,657,648
JPY	48,529,079	KRW	488,178,707	2017/5/8	738,884
BRL	2,738,617	JPY	94,235,065	2017/6/2	468,991
KRW	149,875,795	JPY	14,316,699	2017/6/2	344,870
INR	5,560,488	JPY	9,352,741	2017/5/8	269,449
BRL	662,656	JPY	22,995,821	2017/5/8	100,822
JPY	28,340,719	TRY	917,350	2017/6/2	27,180

買い	数量	売り	数量	決済日	未実現損益
JPY	1,971,774	KRW	19,901,133	2017/5/8	23,555 円
JPY	3,605,315	KRW	36,684,141	2017/5/8	14,125
JPY	478,171	BRL	13,688	2017/6/2	4,808
JPY	878,337	BRL	25,109	2017/5/8	3,166
JPY	289,062	BRL	8,214	2017/5/8	2,764
JPY	126,288	KRW	1,264,358	2017/5/8	2,514
JPY	357,326	BRL	10,198	2017/5/8	1,875
JPY	17,899	INR	10,348	2017/6/2	76
JPY	411	INR	239	2017/5/8	(3)
JPY	14,483	TRY	475	2017/6/2	(207)
JPY	88,967	KRW	921,476	2017/5/8	(1,241)
JPY	554,006	BRL	15,950	2017/5/8	(1,943)
JPY	57,913	TRY	1,923	2017/5/8	(1,967)
JPY	148,527	KRW	1,539,007	2017/5/8	(2,134)
JPY	98,075	INR	58,524	2017/6/2	(2,718)
JPY	113,763	INR	67,371	2017/5/8	(2,820)
JPY	253,014	INR	148,901	2017/5/8	(4,654)
JPY	174,712	INR	103,686	2017/5/8	(4,713)
JPY	1,785,383	KRW	18,315,352	2017/5/8	(7,596)
JPY	3,403,672	INR	1,990,650	2017/6/2	(24,723)
JPY	826,740	TRY	27,900	2017/5/8	(41,615)
JPY	820,976	TRY	27,814	2017/5/8	(44,709)
JPY	3,166,712	INR	1,857,588	2017/5/8	(47,765)
JPY	2,589,459	KRW	26,977,093	2017/5/8	(51,460)
JPY	1,440,106	TRY	48,285	2017/5/8	(62,712)
JPY	3,285,106	KRW	34,431,354	2017/5/8	(85,547)
JPY	1,567,236	TRY	53,288	2017/5/8	(91,273)
KRW	151,291,677	JPY	14,954,038	2017/5/8	(143,358)
JPY	9,301,409	INR	5,537,383	2017/5/8	(280,799)
JPY	20,949,195	KRW	218,491,871	2017/6/2	(424,728)
BRL	2,715,512	JPY	95,294,807	2017/5/8	(646,582)
JPY	42,467,952	KRW	441,710,867	2017/5/8	(773,280)
JPY	29,387,370	TRY	976,156	2017/5/8	(993,936)

2,214,403

(注) 日付は現地基準です。

(注) () 書きは負数です。

T & D マネーアカウントマザーファンド

運用報告書（全体版） 第5期（決算日 2017年9月11日）
（計算期間 2016年9月13日から2017年9月11日）

「T & D マネーアカウントマザーファンド」は、2017年9月11日に第5期決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	信託期間は原則無期限です。
運用方針	安定した収益の確保を目標として運用を行います。
主要運用対象	わが国の国債、公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
組入制限	外貨建資産への投資は行いません。 株式への投資は行いません。

設定以来の運用実績、基準価額の推移等

設定以来の運用実績

決算期	基準価額		債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	純 資 産 額
	期 騰 落	中 率			
設定日 2012年9月5日	円 10,000	% —	% —	% —	百万円 1
1期（2013年9月10日）	10,013	0.1	4.8	—	35
2期（2014年9月10日）	10,018	0.0	4.2	—	40
3期（2015年9月10日）	10,020	0.0	—	—	43
4期（2016年9月12日）	10,016	△0.0	—	—	8
5期（2017年9月11日）	10,012	△0.0	—	—	4

(注) 基準価額は1万円当たり。

(注) 設定日の基準価額および純資産総額には、当初元本を用いております。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは安定した収益の確保を目指すファンドであり、ベンチマークおよび参考指数はありません。

■ 投資環境

【国内短期金融市場】

国庫短期証券3ヵ月物利回りは上昇しました。日銀による「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」等の短期金利を低位に抑える金融政策が継続しましたが、日銀の国庫短期証券買入オペ動向に対する不透明感の高まり等から利回りは上昇し、期首の△0.315%から期末は△0.183%となりました。

■ 当該投資信託のポートフォリオ

国債の利回りがマイナスで推移したため組入れを見送り、期を通じて組入比率は0%といたしました。資産については、全額コールローン等で運用を行いました。

■ 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載しておりません。

■ 今後の運用方針

足許における比較的堅調な国内外の景気動向等を背景に、日本のインフレ率は上向いていくと予想しますが、依然、基調的なインフレ圧力は弱く、インフレ期待が急速に高まる可能性は低いとみられます。こうした中、日銀の「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」が金利抑制要因として作用することから、国内短期金利は低位で推移すると予想します。

相対的に金利リスクの高い長期債への投資は見送り、短期国債や短期金融商品等を中心とした安定的な運用を行います。

1万口当たりの費用明細 (2016年9月13日から2017年9月11日まで)

当期において発生した費用はありません。

売買および取引の状況 (2016年9月13日から2017年9月11日まで)

当期における売買はありません。

利害関係人との取引状況等 (2016年9月13日から2017年9月11日まで)

当期における利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

組入資産の明細 (2017年9月11日現在)

当期末における組入れはありません。

投資信託財産の構成 (2017年9月11日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	千円 4,500	%
投 資 信 託 財 産 総 額	4,500	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

資産、負債、元本および基準価額ならびに損益の状況

資産、負債、元本および基準価額の状況

2017年9月11日現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	4,500,575円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	4,500,575
(B) 負 債	8
未 払 利 息	8
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	4,500,567
元 本	4,495,071
次 期 繰 越 損 益 金	5,496
(D) 受 益 権 総 口 数	4,495,071口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,012円

- (注) 期首元本額 8,522,672円
 期中追加設定元本額 788,536,952円
 期中一部解約元本額 792,564,553円
 (注) 1口当たり純資産額は1.0012円です。
 (注) 当マザーファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本の内訳
 T&D日本株ファンド(通貨選択型) マネーボールコース 4,445,150円
 ロボット戦略 世界分散ファンド 49,921円

損益の状況

当期 自2016年9月13日 至2017年9月11日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 60,881円
支 払 利 息	△ 60,881
(B) 当 期 損 益 金 (A)	△ 60,881
(C) 前 期 繰 越 損 益 金	14,031
(D) 追 加 信 託 差 損 益 金	1,023,048
(E) 解 約 差 損 益 金	△ 970,702
(F) 合 計 (B + C + D + E)	5,496
次 期 繰 越 損 益 金 (F)	5,496

- (注) 損益の状況の中で
 (D)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。
 (E)解約差損益金とあるのは、一部解約の際、元本から解約価額を差引いた差額分をいいます。